デジタル革新を支える人工知能 Zinrai特集に寄せて

富士通株式会社　執行役員
原 裕貴

近年，ビジネスの世界では，クラウドやモバイル，IoT，アナリティクス，AI（人工知能）といった最先端のデジタルテクノロジーを取り入れ，新たな顧客価値を創り出すデジタル変革が加速しています。特に，Deep Learningなどの新しい技術の出現による，いわゆる第3次AIブームによってAIへの期待が高まり，それを活用した価値創出は現実のものになりつつあります。

コンシューマ向けでは，スマートフォンや家電製品にAI技術が搭載され始め，AIスピーカーも商用化されています。ビジネス分野においても，コールセンターにおけるお客様応答の精度向上や，金融における信用力の分析，医療における画像診断や遺伝子解析，あるいは創薬といった分野をはじめとして，AIの活用に関して日々新たなニュースが伝えられています。

富士通はAIの実用化に向けて，30年以上にわたり研究開発に継続的に取り組んできました。急速に拡大するAIへの要望に応えるべく，これらのAI技術を体系化し，2015年11月に「FUJITSU Human Centric AI Zinrai」ブランドを発表しました。Zinraiは「人と協調し，人を中心としたAI」を目指しています。これまで富士通が行ってまいりました，お客様の現場にICTを適用するシステムインテグレーションの取り組みを更に一歩進め，お客様の持つデータやシステムにAIを適用することで，新たな価値を生み出す取り組みを進めています。

AI活用の具体的な事例には，社会インフラにおける品質や安全性の確保，金融における信頼性の確保，流通における効率化の実現，企業現場における働き方改革による生産性の向上などがあります。これらを実現するために，富士通はお客様の業務におけるAI活用をより容易にする機能やナレッジで構成した目的別API（Application Programming Interface）を提供する「Zinraiプラットフォームサービス」，スーパーコンピュータ「京」（「京」は理化学研究所の登録商標）をはじめとするハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）の領域で培ってきた技術を投入した「Zinraiディープラーニング」，AI特化型ハードウェアであるDeep Learning用独自アーキテクチャーの「DLU（Deep Learning Unit）」などをラインナップしています。更に，量子コンピューティングに着想を得た，組み合わせ最適解を高速に算出するアーキテクチャー「デジタルアニーラ」を開発し，提供を始めています。

このような取り組みを通じて，富士通はお客様のビジネス現場へのAI技術活用による価値の創出とともに，豊かで夢のある社会づくりへ貢献してまいります。